

## 事前評価報告書

Advisory Board Meeting 開催日：平成17年7月28, 29日

評価委員：（敬称略、アルファベット順）

Prof. Masuo Aizawa (Tokyo Institute of Technology), Prof. Fritz Aldinger (Max Planck Institute for Metals Research), Prof. Akio Etori (Edogawa University), Prof. Jean Etourneau (Institut de Chimie de la Matière Condensée de Bordeaux), Prof. Colin Humphreys (University of Cambridge), Dr. Tetsuro Ohashi (National Traffic Safety and Environment Laboratory), Dr. Leslie E. Smith (National Institute of Standards and Technology), Prof. Marcel Van de Voorde (European Commission Research), Dr. Stan Williams (Quantum Science Research, Hewlett-Packard), Prof. Hiroaki Yanagida (University of Tokyo)

課題名	ナノ構造制御による超伝導材料の高性能化
研究責任者の所属・氏名	超伝導材料研究センター 熊倉 浩明
<b>【項目】</b>	<b>評価結果</b>
コメント及びアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ナノの必要性が明確に提示されていて良い。研究の蓄積もあり底力がある。</li> <li>・ NIMSは超伝導の多くの側面、特に実用材料作製と動作マグネットの開発、において世界のリーダーである。このことから、継続している研究に優先性がある。</li> <li>・ 世界一流の研究であり、新材料研究と応用研究の両方の研究を奨励する。</li> <li>・ MgB<sub>2</sub>の研究は高く評価される。</li> <li>・ 成果が期待される重要な分野である。幅広い実用化が加速されるべきである。</li> <li>・ 超伝導の国家プロジェクトを正当とする理由は妥当である。NIMSにおける研究は世界的である。目標の選定は適切である。研究は極めてうまく行われており、応用は分かり易い。</li> <li>・ 理論家との共同研究を増やすことは本研究グループに役立つ。</li> <li>・ もし別の優れた超伝導体が発見されたら、どうするのか。研究の一つを捨てるのか、あるいはそれを追いかけるのか。プロジェクトの一部は新物質と連動すべきである。</li> </ul>
評価点	S, S-, A+, S, S, A, S, A+, S, N/A
総合評価点※	S-

N/A=No Answer

※評価点の点数は10(S), 9(S-), 8(A+), 7(A), 6(A-), 5(B+), 4(B), 3(B-), 2(C+), 1(C)とする。総合評価点は評価委員の点数の平均点(小数点第二位以下四捨五入)をXとすると、S:X=10, S-:9≤X<10, A+:8≤X<9, A:7≤X<8, A-:6≤X<7, B+:5≤X<6, (以下同じ考え方)・・・とする。